

第3投目：裏切らなかった super flow

2013.3月某日、奄美磯釣連盟3月大会の開幕です。天気予報では3日間連続で南西の風が吹くこの時期としてはめずらしい天気、冬に太平洋に中心をもつ高気圧が居座る天気はクロ釣りにどう影響するのでしょうか。

大会初日、先手必勝をもくろみメンバー5名で渡船に乗り込みます。船は古仁屋港を5時30分に出港し、南からのうねりが残るまだ暗い海を与路島へ向けて走りだしました。

この日私が最初に渡礁した磯は与路島の北端、青尻崎付近の磯。最近はあまり人が降りてないようですが、下げ潮で40cm以上の大会エントリーサイズを狙います。

仕掛けを作り終え、撒き餌をするとアイゴ、イスズミ、ササム口と魚がどんどん増えてきます。どうやら海はそれほど悪くないようです。少しすると足元から出るサラシの切れ目に一瞬だけクロと思われる白い尾びれが確認できました。半信半疑ながらクロを釣るための釣りを試すと、仕掛けがなじむと同時にアタリウキを引き込むアタリです。反射的に合わせますが、竿に乗った直後に痛恨の針ハズレ…その磯ではその後、クロらしい魚影も見えず下げ潮が止まってしまいました。



さて、回収までは残り3時間。先月の2月大会で瀬替りにより良い結果を得られた私は、調子に乗ってこの日も瀬替りを選択しました。午後の上げ潮狙いで移った磯はハンミヤ島付近の小さな岩、仲間と2名で渡礁し大会入賞サイズのクロを狙います。

その磯に乗ってすぐは上げ潮もユルユルと動いていましたが、時間がたつにつれてゴーゴーと流れだしました。我々2人は少しでも多くの情報を海から得ようと釣り座を分かれて構えていましたが、私の反対側でイスズミが撒き餌を拾い出し始めて10分後、その場所で釣っていた仲間がなにやらタモに魚を収めてこちらに見せます。『クロきましたよ！こっちじゃないですか？』

その魚がエントリーサイズただだに、釣れた場所へ移動したい気持ちと焦りがありました。自分の目の前にも狙うべき良い流れ（super flow）があります。そして動揺を抑えつつ次の1



投…アタリです！私が磯際で掛けた魚は重量感がありながらもスーッと竿に誘導され、手前にきて幾度も突っ込みを見せるクロでした。結果、仲間にタモ入れしてもらったその魚がなんと3月大会を制する49cm！前大会に引き続き、またしても瀬替りで幸運を掴みとることができました。

その後、同じ場所で1枚追加しその日は納竿。先手必勝を狙った大会初日は、その思惑通りの好釣果に恵まれ終了したのでした。